

丸重屋。

丸重屋 会社案内
MARUSHIGEYA COMPANY GUIDE



マルシゲヤ。 は 橋梁点検非破壊検査技術として

超音波探傷試験 Ultrasonic Testing (UT) JIS Z 3060、
磁気探傷試験 Magnetic particle Testing (MT) JIS Z 2320 や
浸透探傷試験 Penetrant Testing (PT) JIS Z 2343 を得意とし、
多くのお客様より信頼を頂いています。

超音波探傷試験 (UT)、磁気探傷試験 (MT)、浸透探傷試験 (PT) とは？

超音波探傷試験(UT)は、鋼構造やコンクリート工作物の内在する欠陥を検出する探傷試験です。超音波が物体を伝播するときに内部欠陥や空洞があると反射されたり、透過が妨害・減衰される性質を利用し、材料内部の割れやクラック(きず)の検査・溶接部検査・厚さ測定などの検査をする技術です。

磁気探傷試験(MT)は、鉄鋼材料などの強磁性体の表面および、その近傍のクラックを検出するのに適した探傷試験です。数ミクロンの深さの欠陥も発見でき、複雑な形状でも検出可能な高度かつ精微な検査方法であり、検査物を磁化し、クラックより発生する漏洩磁束に磁粉を付着させ、実際のクラックの幅に比較して数倍から数十倍の幅の磁粉模様ができ、目視観察で容易にクラックが発見できる技術です。

浸透探傷試験(PT)とは水の表面張力を利用してクラックを検出する探傷試験です。



日本各地の橋・トンネルの『高齢化』が問題になっています。

一般的に橋の耐用年数は約50年。

2007年に国交省は各自治体へ橋・トンネルの検査と保全補修の計画書を作成するよう推奨しましたが、未だに各自治体は検査の予算や人材の確保ができていません。建設から50年以上を経過した橋は2014年で全体の18%ですが、10年後の2024年では43%へと倍増。『高齢化』時代が始まります。

日本国内には延長2m以上の道路橋は約70万橋あり、約48万橋を市町村、約18万橋を都道府県・政令市、約2.7万橋を国、約1.6万橋を高速道路会社が管理しています。トンネルは全国に約1万本あり、約5100本を都道府県・政令市、約2300本を市町村、約1800本を高速道路会社、約1400本を国が管理しています。

2014年7月に施行された国土交通省令・告示に基づき、約70万橋梁と約1万本のトンネルについて、5年に1回の近接目視点検を義務化・全数監視が始まり、メンテナンスサイクルの確立への機運が芽生えています。時代は「新しく作る(新設)」から「長く使う(長寿命化)」へシフトしています。更に今後、アジア諸国のインフラの老朽化も予測され、私たちはこの問題へ取り組むことで国際貢献して参ります。



現在、橋梁やトンネルの調査・検査を専門に展開している会社は多くありません。
そして、技術の取得・向上は私たちの発展に不可欠です。

筐子トンネル天井板落下事故以降、関心が高まる維持管理分野について「点検、診断者の能力をしっかりと評価する必要がある」と各界より指摘されています。ダム・風車・サイロ・ビル・トンネル・橋梁・吊橋や斜張橋のケーブル類やコンクリート・鋼構造物の劣化および亀裂・破損調査を研修し、基準に則った品質管理・安全管理を学び、活用していくことは日本の点検調査技術の飛躍になると私たちは確信しています。

更に溶接構造物やコンクリート構造物の品質保証の要ともいえる非破壊検査の実施は、様々な業界で求められています。鋼構造物の溶接部への放射線検査(RT)、超音波検査(UT)、磁気検査(MT)、浸透検査(PT)、電磁誘導検査(ET)及びひずみ測定(SM)などの非破壊検査手法を取り入れた公共工事の品質確保の促進に寄与する会社づくりに私たちは取り組みます。

日本全国に「立入禁止」の札が立つ日はそう遠くはありません。

次世代で起こるインフラ・クライシスを非破壊検査技術で回避する。これが私たち丸重屋の使命です。

検査技術者の見識

「観る」則ち、観察する・観測すること

「診る」則ち、診断すること

「看る」則ち、看護方法を提案すること

私たちの仕事は丁寧に観察・計測（観る）し
安全性評価（診る）を実施しなければならない。

危険と判断された構造物については
対策工法（看護方法）を提案しなければならない。

若手技術者の皆さんへのメッセージ

丸重屋はインフラ再生技術者・若手技術者へ以下の育成カリキュラム 6項目の日常点検技術の習得を支援します。

●小規模橋 ●橋梁・洞門・シェッド ●トンネル・擁壁・ボックス ●道路附属物（標識、照明、防護柵、側溝）●舗装 ●斜面・のり面

構造物によっては座学による点検や更に高度な技術も視野に入れ各構造物とも現場実習を中心に、実務で生かせるカリキュラムを準備します。

社会資本の維持管理・社会インフラの『高齢化』時代の到来を見据え、特化した技術・点検・診断の知識・技能・実務経験を有する技術者を我々は育成します。

ごあいさつ

丸重屋は2000年12月に京都山科にて創業して以来『京町家の技術屋さん』として『橋梁点検や非破壊検査技術などの職分を通し、地域に暮らす皆さまの安全、安心に貢献すること』、河井醉茗の詩『ゆずり葉』（最終ページに御座います）にある一節のように、『大切な社会資本を技術者の知をもって次世代へ引き継ぐこと』、このふたつを理念に事業を展開してまいりました。21世紀に入り 私たち企業を取り巻く環境は、情報技術の進歩、人口の減少と高齢化社会、自然環境との共生など、極めて重要なテーマが山積しています。こうした経営環境の変化の中で、丸重屋は、お客さま第一の経営姿勢を大切にしながら、社員の創造性と人間力を結集し、確かな事業戦略で安定的・持続的な成長を希求し取り組んでまいります。

そしてまた、宿願である良き企業市民であるために、地域をはじめとするステークホルダーの皆さまとのより良い関係づくりに最大限の力を注ぎ、皆さまのご期待と信頼に応える『誠実に努め、多様性を推重し、かつイノベーションに満ちた魅力ある企業』の成就をテーマに、挑戦し続けてまいります。今後とも 丸重屋へのご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

有限会社 丸重屋 代表取締役社長

平手克治



会社沿革

| | | | | | | | |
|---------------------------------------|--|---|--|---|--|--|--|
| 2000年 | 2003年 | 2007年 | 2010年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 | 2018年 |
| 12月 京都市山科区大宅御供田町にてマルシゲエンジニアリング個人事務所創業 | 6月 京都市山科区西野広見町に事務所を移転 10月 マルシゲエンジニアリング有限会社法人設立 江東区東陽町にて東京事務所事業開始 | 6月 社名を有限会社 丸重屋とする 京都市山科区大宅閑生町へ本店を移転 江東区大島5丁目へ東京事務所を移転 | 3月 一般社団法人日本非破壊検査工業会入会 2011年 5月 資本金500万円に増資 2014年 9月 測量業登録国土交通大臣第(1)-34346号登録 | 3月 建設業 京都府知事(般-26)第40312号 とび・土木事業登録 4月 一般社団法人特殊高所技術協会入会 7月 京都市山科区勤修寺平田町へ本店を移転 | 1月 一般社団法人山科経済同友会入会 7月 国土強靱化貢献団体の認証に 関するガイドライン~レジリエンス認証取得 L0000002取得 8月 資本金800万円に増資 12月 建設コンサルタント登録 建28第10426号 | 4月 京都商工会議所入会 12月 ISO9001:2015 QMJ:0053取得 | 1月 インフラメンテナンス国民会議入会 4月 一般財団法人地球システム総合研究所 京都地盤研究会入会 |

会社概要

※2018年6月の情報です。

商号 有限会社 丸重屋

所在地 京都本店
〒607-8214
京都府京都市山科区勸修寺平田町57
TEL 075-591-1919
FAX 075-592-1919
技術部直通電話 075-591-1910

東京技術センター
〒136-0072
東京都江東区大島5-27-10
TEL 03-6413-6190
FAX 03-6413-6191

ホームページ www.marushigeya.com

eメール info@marushigeya.com

創業 2000年12月

設立 2003年10月

主事業内容 橋梁の調査・点検・非破壊検査

代表者 平手 克治

従業員数 40名

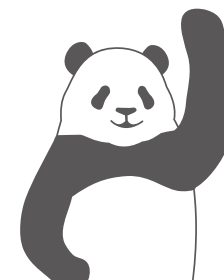
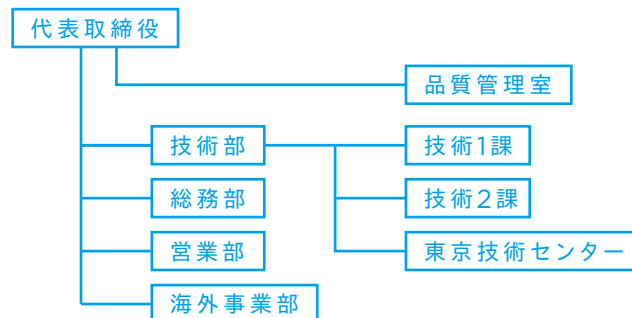
資本金 1,000万円

提携企業 (株)中央サービス
(株)すみれ測量設計事務所・関口土地家屋調査士事務所

主取引銀行 京都銀行
京都中央信用金庫
関西アーバン銀行

所属団体 一般社団法人 日本非破壊検査工業会
一般社団法人 地球システム総合研究所 京都地盤研究会
NPO法人 あすの夢土木
一般社団法人 特殊高所技術協会
一般社団法人 山科経済同友会
国立研究開発法人 土木研究所CAESARメンテナンス技術交流会
インフラメンテナンス国民会議
東京商工会議所
一般社団法人 東京都江東産業連盟
京都商工会議所

組織図



PANDA panda LIFE***

取得資格一覧

| | | | |
|-------------------|-----|---|-----|
| 技術士(建設部門) | 2名 | 非破壊試験技術者 放射線透過試験 レベル3・2 | 1名 |
| 技術士(化学部門) | 1名 | 非破壊試験技術者 超音波探傷試験 レベル3・2 | 2名 |
| 技術士補 | 3名 | 非破壊試験技術者 磁気探傷試験 レベル3・2 | 10名 |
| RCCM(鋼構造及びコンクリート) | 2名 | 非破壊試験技術者 浸透探傷試験 レベル3・2 | 5名 |
| コンクリート診断士 | 1名 | 非破壊試験技術者 ひずみ測定 レベル1 | 1名 |
| 道路橋点検士 | 2名 | インフラ調査士 橋梁(鋼橋) | 7名 |
| 准橋梁点検技術者 | 2名 | インフラ調査士 橋梁(コンクリート橋) | 7名 |
| 一級土木施工管理技士 | 1名 | インフラ調査士 トンネル | 7名 |
| 二級土木施工管理技士 | 2名 | インフラ調査士 付帯施設 | 7名 |
| 二級建築士 | 1名 | 配筋探査技術者 土木 | 4名 |
| 測量士 | 1名 | 配筋探査技術者 建築 | 2名 |
| 測量士補 | 4名 | ボス供試体の作成方法及び試験方法(NDIS3424) | 1名 |
| 職長・安全衛生責任者 | 3名 | 電磁波レーダ法によるコンクリート配筋探査技術者 | 1名 |
| 高所作業車 | 15名 | 電磁誘導法による鉄筋位置測定技術者(JASS 5 T-608) | 1名 |
| 足場組立等作業主任者 | 1名 | コンクリート現場試験技能者(反発度法・衝撃弾性波表面2点法) | 1名 |
| 屋外広告物講習会受講者 | 1名 | ドリル削孔粉を用いたコンクリート構造物の中性化深さ試験方法(NDIS3419) | 1名 |
| 首都高速道路認定点検員資格 | 16名 | ほか | |
| 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者 | 8名 | | |
| 特殊高所技術1級 | 1名 | | |
| 特殊高所技術3級 | 7名 | | |



河井 醉茗 ゆずり葉

1932年(昭和7年)作成

子供たちよ

これはゆずり葉の木です

このゆずり葉は

新しい葉が出来ると

入り代わってふるい葉が落ちてしまうのです

こんなに厚い葉

こんなに大きい葉でも

新しい葉が出来ると無造作に落ちる

新しい葉にいのちをゆずって

子供たちよ

お前たちは何をほしがらないでも

すべてのものがお前たちにゆずられるのです

太陽のめぐるかぎり

ゆずられるものは絶えません

かがやける大都会も

そっくりお前たちがゆずり受けるのです

読みきれないほどの書物も

みんなお前たちの手に受け取るのです

幸福なる子供たちよ

お前たちの手はまだ小さいけれど

世のお父さん、お母さんたちは

何一つ持ってゆかない

みんなお前たちにゆずってゆくために

いのちあるもの よいもの 美しいものを

一生懸命に造っています

今、お前たちは気が付かないけれど

ひとりでいのちは延びる

鳥のようにうたい 花のように笑っている間に

気が付いてきます

そしたら子供たちよ

もう一度ゆずり葉の木の下に立って

ゆずり葉を見る時が来るでしょう